

岩手よもっと
元気になれ!

(財)いわて産業振興センター広報誌

Vol.

86

産業情報 いわて

岩手の銘豚

農場直営

食肉加工場 TEL 019-3491
農場 019-3491

CLOSEUP

岩手力!

久慈ファーム株式会社

いわて希望ファンド 事業採択から1年

特集

県内主要発注企業外注ニーズ調査結果

お知らせ

コーディネーター・アドバイザー紹介
下請かけこみ寺
新職員紹介

募集

「青森・秋田・岩手3県合同商談会」
の開催について(ご案内)

GLOSEUP

岩手力!

いわて希望ファンド 事業採択から1年

久慈ファーム有限会社



いわて希望ファンドで購入したスチームコンベクション。佐助豚の肉質を活かした新しい加工食品がここから生みだされる

独自の飼育法でけもの獣臭さを
 感じさせない豚肉「佐助」を完成。
 直販のみで全国に販路を拡大中

全国に数百あると言われる銘柄豚。各産地、飼育業者は安心・安全かつ美味しい豚肉生産を競い、それぞれに独自性を謳い上げている。そんな中「折爪三元豚・佐助」は、後発ながら直販のみで全国に販路を拡大。来年は現在の倍の規模の農場を新設する計画で、畜産岩手の新たな旗手として注目される。

「佐助豚」誕生秘話

「佐助」は、現社長、久慈剛志さんの祖父の名前だった。

久慈佐助氏は昭和20年代から兼業農家として豚を飼っていた。40年代になって二代目、周平氏（会長）は専業で養豚に取り組んだ。三元豚、つまり、繁殖性、飼育性、肉質、それぞれに優れた性質を持つ豚をかけ合わせた優良種の飼育を始めたのも周平氏だった。

剛志さんは平成13年に帰郷して家業を継承、15年に新ブランドを立ち上げることになった。このときネーミングに悩んだ。業界では後発であり、当初から「直販」のみでいく考えだったから”〇〇ポーク”的なよくあるネーミングでは埋没してしまう。当時、すでに全国には250ほどの銘柄豚があった。その中でアピールするには、よほどインパクトのあるネーミングでなければ…。

悩んでいるとき、妻のゆきさんの発した言葉が天の声となった。

「だれか飼い始めたの？」

「いい肉は健康に育てることから…」。父子三代変わることをない信念

今日、さまざまな商品に人名が付けられているが、当時、豚肉にはまだ例が無かった。

「父子三代にわたって守り続けてきた『佐助豚』——ストーリー性に富んだブランド名がここに誕生した。

実は剛志社長は生前の祖父を知らない。したがって、それまではあまり意識にのぼることのない存在だった。それが、ブランド名になったことで、大きな存在として心の中によみがえった。

「爺さんがやっていたからできたことで、大きな遺産です」（剛志社長）

脂の融点が低い

「佐助豚」はどこが違うのか。

一番の特徴として謳っているのは肉に獣臭さを感じないこと。豚肉には豚の、牛肉には牛の、鶏肉には鶏の、それぞれ体臭とも言うべき獣臭さがあるのが普通だが、「佐助豚」にはそれが無い。その理由は企業秘密ともいうべき部分なので、すべてを明らかにしてはくれないが、基本的に飼料はト

シェフ（剛志社長）の味覚が吟味した「トロ〜焼豚」の焼き上がり



ウモロコシ、大豆粕が中心で、魚粉系を多く与えないのだという。それと、植物性炭化物と呼ばれる炭状のものを数%飼料に混ぜている。当初これは糞尿の臭い消しのために使い始めたものだったが、結果として肉質にも良く働いたようだという。

さらに言えば、出荷時期に肉の量、質ともに最高レベルにもっていく、餌の与え方のバランスにも秘訣があるようだ。その辺はまさに三代にわたって培ってきたノウハウ。

脂身の融点が低いことも大きな特徴だ。自社比較で従来より2~3℃低いようだという。これは公的機関の装置を使って剛志社長自ら確かめた。

融点が低い、つまり溶けやすい。そのため食べたとき脂身が口の中でとろけるような感じがある。

ただ、肉として軟らかいため、薄くスライスしにくいなど、現場からはあまり歓迎されない。したがって大量生産・販売を前提にしたルートには乗りにくい肉ではある。

しかし、剛志社長は「量よりも質」に軸足を置き、この肉質にこだわった。

「この味ならいける」

東京で肉の勉強をしているうちから、剛志社長はこの「佐助豚」となる豚肉に確信を持っていた。

子供が継ぎたいと思う会社に

剛志社長が東京の調理師学校に入ったのは、純粋に調理師になりたかったからで、今日あることを想定していたわけではなかった。が、結果として調理師の素養が今に活かしている。

二戸市の紹介で「いわて希望ファンド」(管理運営=いわて産業振興センター)に応募、地域資源活用枠で採用となり200万円を手

にしたとき、まっ先に購入したのがスチームコンベクションと急速冷凍冷蔵庫。この発想はまさに「シェフ」の感覚。スチームコンベクションは近年、家庭用にも進出しているが、温度、湿度設定が自由自在で焼き物、蒸し物なんでもつくってしまうすぐれもの。これを使って佐助豚の特徴を最大限に発揮する商品を試作するのだ。スチームコンベクションの前であれこれ立ち働く剛志社長の姿はシェフの動きをイメージさせる。

試作品が納得いく味に仕上がったら専門の加工業者に生産委託する。そうやって開発した商品は2アイテムで、試作中のものも4つにのぼる。

新ブランド立ち上げ前、市場価格に振り回される苦労を経験したことから「誰も賛成してくれなかった」直販のみの販売戦略に出た。といっても営業に飛び回るわけではなく、取扱ってくれた商店やレストランの紹介が次への紹介へと連なっていく、今、得意先は全国400店あまりに拡がっている。

来年は今の倍の規模の農場を建設する。そうすると「営業マン不在」というわけにはいかない。幸い生産現場の従業員も成長し、つきっきりでなくてもよくなった。来年以降は全国を飛び回る「佐助」になるかもしれない。

剛志社長の夢——

「長いスパンで言えば、子供が跡を継ぐって言う会社にしたい。それから、小岩井農場のミニ版みたいなのが二戸にできて、そのブランドで肉でも野菜でも一緒に全国へ売っていけるようになればいいなあと…」



佐助豚を使った加工食品の数々。商品によってそれぞれ異なる会社に生産委託している

企業概要

- 設立 2005年5月
- 代表者 久慈 剛志
- 資本金 500万円
- 事業内容 折爪三元豚 佐助の生産・販売・加工
- 従業員数 12名
- 所在地
(本社)
二戸市下斗米字十文字50-12
電話 0195-23-3491
(農場)
軽米町大字晴山10-122-1

URL <http://sasukebuta.co.jp>

今月の表紙/12人の従業員はほとんど地元採用。稼働中のあるところを撮影にご協力いただいたのは、左から藤嶋謙吉さん、村上良子さん、下斗米康宏さん、志賀貴大さん。前職は飲食関係、食品販売、自動車関係などさまざまで、食肉加工は皆初めて。「全国に通用する美味しさをつくっている」実感が湧いてきている。

久慈剛志社長

昭和52年生まれ。調理師を志し、地元の高校を卒業後、東京・新宿の調理師専門学校に学び、その後、都内有名ホテルで修業。帰郷を決意してからは食肉卸売業、老舗すき焼き店に勤め、肉の流通、消費の現場を体験した。事務所に、平成10年青島幸男東京都知事発行の調理師免許状が。家業を継いで働き詰めの5年間だったが、従業員も育ってきたのでこれからは家族サービスもしようと思案。また、地域のためにJCIにも入会。いよいよ多忙を極める三代目。



生産概況で、「多忙」、「適正」とする品目が、大きく減少し、見通しも、半導体、精密機器などの分野で、生産減か。

当センターでは県内の主要発注先を対象に「外注ニーズ調査」を実施しました。受注活動の参考としていただくため、以下に調査結果の概要をお知らせします。

調査について

目的 県内主要発注企業の外注状況、下請企業に対する技術・加工等のニーズを把握し、下請取引紹介・あっせんの円滑化に資すること。
対象企業 岩手県内所在の発注を主とする登録企業 112社
調査方法 訪問によるヒアリング調査
調査時点 平成21年2月
コメント 製造分野別では、「その他」についてはコメント(解説)していない。

生産状況

(1) 現況

回答企業数112社の生産概況を生産品目総数310品目についてみると、「多忙」とする品目が18品目で5.8%(前年度58品目20.6%)、「適正」が68品目で21.9%(前年度123品目で43.8%)、「余力あり」が224品目で72.3%(前年度100品目35.6%)となっており、前年度と比較して「多忙」が40品目14.8%減少、「適正」が55品目21.9%減少、「余力あり」が124品目36.7%増加している。(図-1)

これを製造分野別にみると、「多忙」は一般機器が12.8%(前年度25.8%)で最も高く、次いで農林機器が6.7%(前年度9.1%)となっている。「適正」は農林機器が40.0%(前年度27.3%)で最も高く、次いで一般機器が35.9%(前年度50.0%)となっている。「余力あり」は半導体が100.0%(前年度22.2%)で最も高く、次いでOA機器が95.7%(前年度13.6%)となっている。(図-2)

(2) 見通し

今後の見通しを生産品目総数310品目についてみると、「上昇」が5品目1.6%(前年度43品目15.3%)、「横ばい」が52品目16.8%(前年度168品目59.8%)、「減少」が253品目81.6%(前年度70品目24.9%)となっており、前年度と比較して「上昇」が38品目13.7%減少、「横ばい」が116品目43.0%減少、「減少」が183品目56.7%増加している。(図-3)

これを製造分野別にみると、「上昇」は一般機器が3.8%(前年度21.0%)で最も高く、次いで通信機器が3.3%(前年度8.3%)となっている。「横ばい」は農林機器が33.3%(前年度45.5%)で最も高く、次いで電気音響の27.6%(前年度52.8%)となっている。

「減少」は半導体が100.0%(前年度22.2%)で最も高く、次いで精密機器が94.1%(前年度13.3%)となっている。(図-4)

図-1

生産品目でみる現況
(合計310品目)

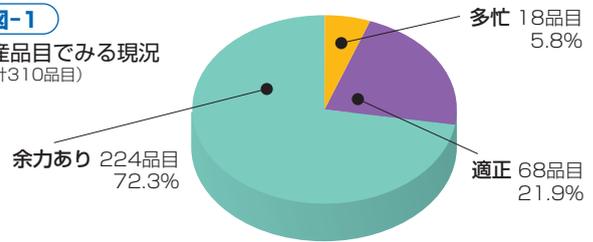


図-2

製造分野別でみる現況

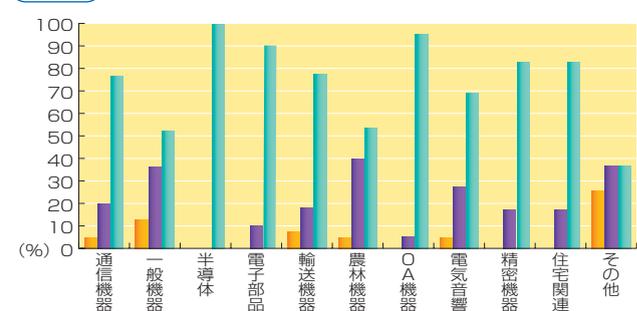


図-3

生産品目でみる見通し
(合計310品目)

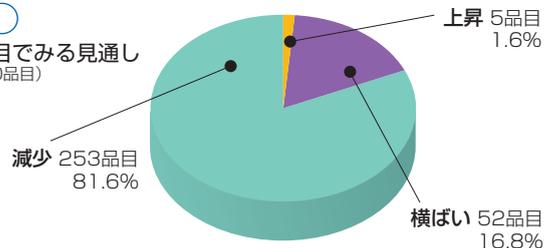


図-4

製造分野別でみる見通し

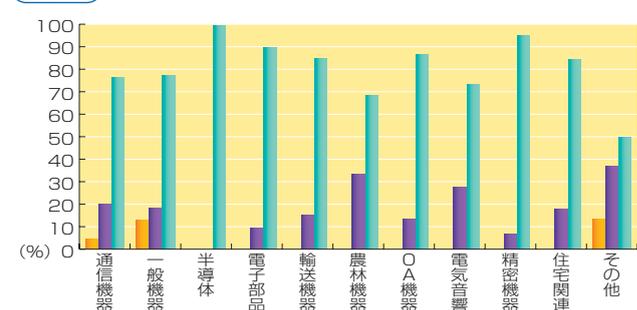


図-5

県内外別外注企業数
(合計3,920社)

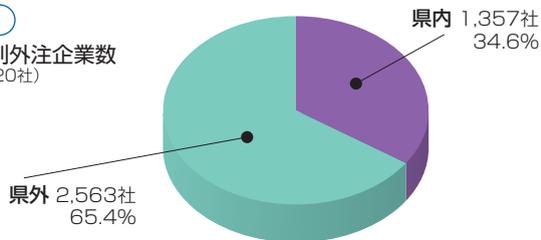


図-7

県内外別外注金額
(合計4,564億円)

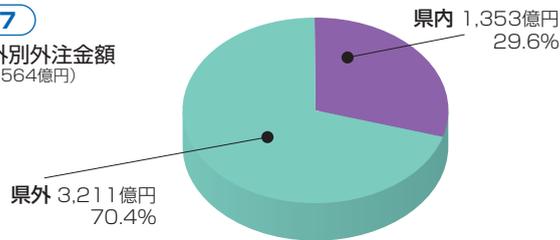


図-6 製造分野別外注企業割合

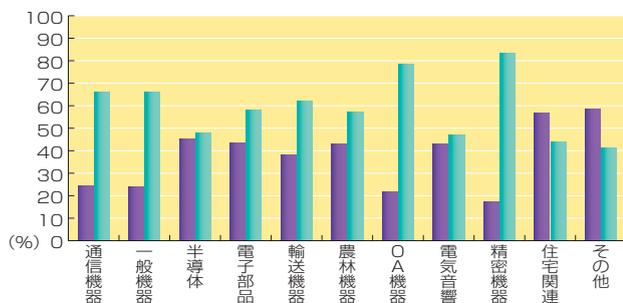


図-8 製造分野別外注金額の割合

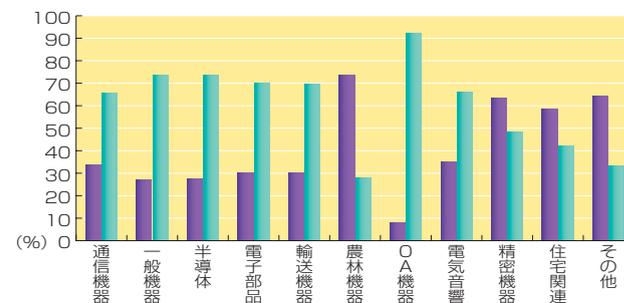
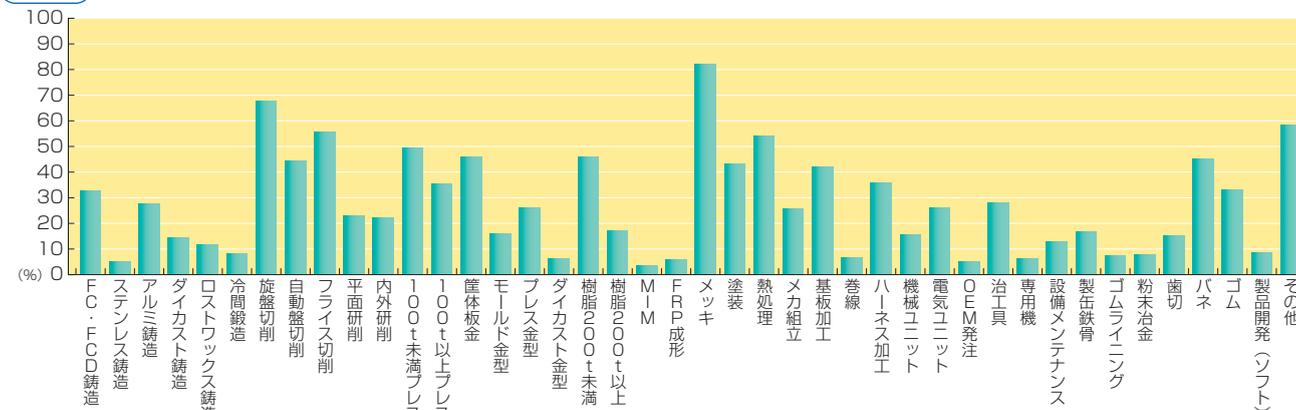


図-9 加工内容別外注割合



外注状況

(1) 外注企業数

回答企業112社が外注している企業数は3,920社(延べ数、以下同じ)あり、これを県内外別でみると、「県内」が1,357社で34.6%(前年度1,398社36.2%)、「県外」が2,563社で65.4%(前年度2,459社63.8%)となっており、前年度と比較して「県外」の割合がやや増加している。(図-5)

これを製造分野別にみると、一般機器が878社で最も多く、次いで精密機器が553社、輸送機器が394社となっている。

さらに県内外別で県内外注の割合が高い製造分野は、住宅関連の36社55.4%、半導体の173社48.5%、電気音響の167社46.1%となっている。

逆に県外外注の割合が高い製造分野は、精密機器の459社83.0%、OA機器の295社76.6%、通信機器の226社70.0%となっている。(図-6)

(2) 外注金額

回答企業112社の1年間での外注総額は、4,564億981万円(前年度は107社で5,165億4,896万円)となっている。

このうち県内外注は1,352億8,569万円で29.6%(前年度716億5,346万円13.9%)、県外外注は3,211億2,412万円で70.4%(前年度4,448億9,550万円86.1%)となっている。(図-7)

これを製造分野別にみると、県内外注は農林機器が71.5%で最も高く、次いで精密機器が61.5%、住宅関連が58.5%となっている。

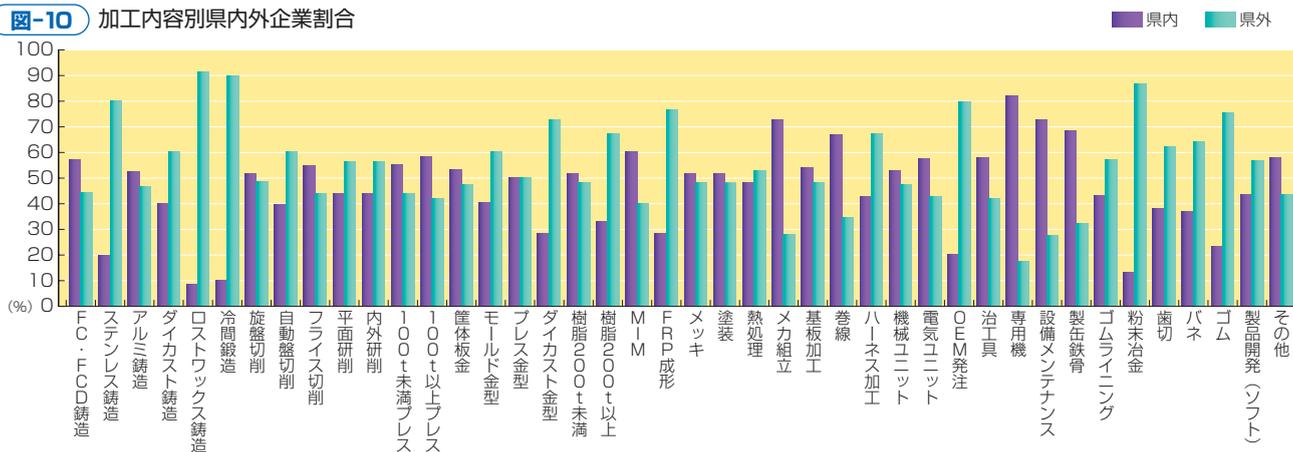
一方、県外外注についてみると、OA機器が92.7%で最も高く、次いで一般機器が74.4%、半導体が73.8%となっている。(図-8)

外注している加工内容

回答企業112社が外注している加工内容を見ると、「メッキ」が92社82.1%と最も高く、次いで「旋盤切削」の77社68.8%、「フライス切削」の63社56.3%となっている。(図-9)

これを県内外別にみると、県内は「専用機」が83.3%で最も高く、次いで「メカ組立」が72.4%、「設備メンテナンス」が71.4%となっている。県外は「ロストワックス鋳造」が92.3%で最も高く、次いで「冷間鍛造」が90.0%、「粉末冶金」が85.7%となっている。(図-10)

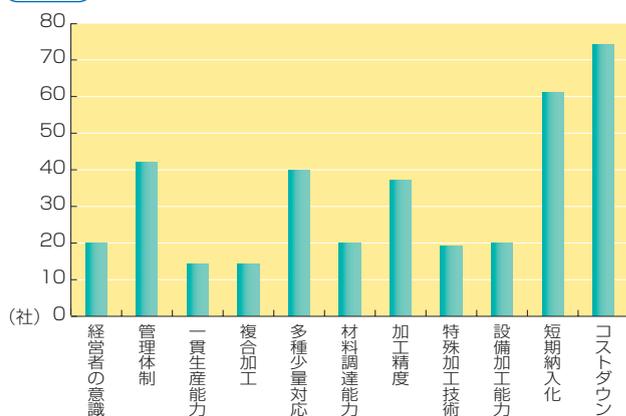
図-10 加工内容別県内外企業割合



県内外注企業に対する要望

県内発注企業の県内外注企業に対する要望は、「コストダウンへの対応力」が74社(66.1%)、「短納期化への対応力」が61社(54.5%)、「管理体制のレベル」42社(37.5%)、「多種少量生産への対応力」40社(35.7%)、「加工精度」37社(33.0%)となっている。(図-11)

図-11 外注企業に対する要望



問い合わせ先

育成支援グループ

TEL.019-631-3822 FAX.019-631-3830

締め切り間近

「青森・秋田・岩手3県合同商談会」の開催について(ご案内)



（助）いわて産業振興センターでは、北東北3県の助21あおもり産業総合支援センター及び助あきた企業活性化センターとの共催で標記商談会を開催いたします。

この商談会は、関東地区の発注企業の皆様と、青森・秋田・岩手県内のそれぞれに特色を持った受注企業の方々が一堂に会して、個別商談や情報交換等をしていただくため、昨年に引き続き開催するものです。

この機会に是非ご参加いただき、北東北3県における新規取引先の開拓や、新たなパートナーづくりにご活用くださいますようご案内申し上げます。

記

- 1 開催日** 平成21年7月14日(火)
- 2 開催場所** 東京都立産業貿易センター浜松町館5階
(東京都港区海岸1-7-8)
- 3 実施内容** 受・発注参加企業における面談形式の商談
- 4 参加範囲** 関東地区を中心とした発注企業(メーカー・商社) 60社
青森・秋田・岩手の各県財団に登録している受注企業 150社
- 5 申込締切日** 平成21年5月20日(水)

問い合わせ先 育成支援グループ TEL.019-631-3822 FAX.019-631-3830

コーディネーター・アドバイザー紹介

4月からセンターの事業に協力いただいているコーディネーター、アドバイザーの方々です。
皆様のご訪問の際にはよろしくお願いいたします。

総合支援グループ



コーディネーター
佐々木 貢

窓口相談 (経営全般)



コーディネーター
佐々木 嶠

窓口相談 (マーケティング)



コーディネーター
高橋 清美

窓口相談 (生産管理)



コーディネーター
佐藤 広昭

窓口相談 (事業戦略)

育成支援グループ



コーディネーター
手代木 勝

工程改善研修会 (自動車産業)



コーディネーター
齋 巖

工程改善研修会 (自動車産業)



サブコーディネーター
佐々木 一豊

受発注に関する相談



県北コーディネーター
飯倉 善明

県北・沿岸振興



アドバイザー
菅原 節雄

受発注に関する相談



アドバイザー
佐野 茂

受発注に関する相談



アドバイザー
伊藤 裕子

取引相談 (下請かけこみ寺)



医療機器事業化マネージャー
大森 健一

医療機器事業化支援

新事業・研究開発支援グループ



コーディネーター
山本 忠

産学官連携の研究開発を
基盤とする事業化支援



科学技術コーディネーター
佐々木 蔵寿

都市エリア事業に
関する事業化支援



科学技術コーディネーター
阿部 四朗

都市エリア事業に
関する事業化支援



コーディネーター
大島 修三

窓口相談 (研究開発)

取引上のお困りごと、ご相談ください。

下請 かけこみ寺

弁護士無料相談をご活用ください！

弁護士無料相談事業は今年度も継続します。お気軽にご相談ください。「かけこみ寺・移動相談所」において無料弁護士相談会を計画しています。

かけこみ寺・移動相談所(5月・6月の開催予定)

- 【一関会場】** 財団法人岩手県南技術研究センター
5月12日(火) 13:00～15:00
- 【二戸会場】** 二戸広域観光物産センターなにやーと3階
5月20日(水) 13:00～15:00
- 【久慈会場】** 久慈商工会議所
5月21日(木) 10:00～12:00
- 【宮古会場】** 宮古地方振興局 第4会議室
5月27日(水) 10:30～13:00
- 【釜石会場】** 財団法人釜石・大槌地域産業育成センター
6月 9日(火) 13:00～15:00
- 【大船渡会場】** 大船渡商工会議所
6月10日(水) 10:00～12:00



下請かけこみ寺・弁護士無料相談の問い合わせ先

育成支援グループ 担当/伊藤・村上 TEL.019-631-3822 E-mail:joho@joho-iwate.or.jp

新職員紹介

4月から新たにセンターに勤務している職員です。皆様のごところに訪問した際にはよろしくお願ひします。



総合支援グループ
リーダー・参事

長谷川 英治
相談窓口業務や情報発信業務を支え、県北・沿岸地域の産業振興も含めた総合支援に取り組んで参ります。



総務・金融グループ
主査

菅原 英明
県からの派遣で金融を担当します。よろしくお願ひします。



育成支援グループ
参事

菅原 章
岩手県労働委員会事務局から参りました。未曾有の不況のなか、日夜頑張っている企業の皆さんのお役に立ちます。



育成支援グループ
主査

似内 憲一
県からの派遣で、育成支援グループに配属しております。企業の皆様と一緒に頑張ってお参りたいと思います。



新事業・研究開発支援グループ
主査

菊池 修二
いわて希望ファンド地域活性化支援事業の担当になります。よろしくお願ひいたします。



新事業・研究開発支援グループ
主事

高館 睦
民間の企業に11年間務めておりました。その時の経験が少しでもこちらでの仕事に活かさればと思っております。

(財)いわて産業振興センター広報誌

産業情報いわて

2009年5月10日(毎月10日発行)

■発行 (財)いわて産業振興センター
〒020-0852 盛岡市飯岡新田3-35-2(岩手県先端科学技術研究センター2階)
TEL.019(631)3826 FAX.019(631)3830
E-mail joho@joho-iwate.or.jp URL http://www.joho-iwate.or.jp/
■編集印刷 川口印刷工業株式会社

